

総合計画後期基本計画(案)についてのご意見

No.	ご意見
1	計画の最初のほうに、特色をふまえた地域の将来像或いは地域の整備目標の簡略な記述があった方がよいのではないかと。
2	北アルプスの3,000メートルの高地と富山湾の1,000メートルの深さで計4,000メートルの高度差のある数少ない地域であって、朝山でスキーをして、午後海水浴ができる恵まれた環境である。このような環境を活用した地域整備で、広域観光に寄与する広告宣伝はできないものか。
3	日本海沿岸は、日本の各地に物を配送する場合、太平洋沿岸より距離が短く、富山はそのほぼ中央にあり、かつ、3大都市圏を望む扇の要の位置にある。加えて、対岸との距離も近く、それなりの輸送手段の整備も図られてきている。このような条件を生かして、地域外にとっても利用価値のある広域交流地域とアピール出来ないか。
4	富山は単に薬の生産だけでなく、和漢薬等の伝統的医学と西洋医学を総合的に活用して、病気の治療だけでなく、これからの時代にふさわしい健康づくりに関する情報・サービスを提供する地域づくりを推進していることを広く訴える必要があるのではないかと。
5	特色を持つ企業などの力を結集して、地域内外の企業の問題解決ニーズに応える機能を整備して、困ったら富山へ相談してみろといわれる地域づくりを推進してはどうか。
6	(用語の説明) 素案の128ページ「環境にやさしい公共交通は分からない人が多いのではないかと。」
7	素案153ページの「公共交通沿線居住推進事業 補助対象戸数900戸の増」補助金事業は、市には考えがあるだろうが、市民のあいだでは、本末転倒と評判が悪い。制度化している現在、止めることは出来ないと思うが、総合計画に戸数増加と入れないほうが良いのではと思う。
8	目次第2章「基本計画」重複している。
9	P104「地域別最大積雪深の状況(平成22年度)」の表に細入地域のデータが欠落している。
10	「安全なまち(まちづくりの目標Ⅱ)」の中に「原発安全対策」についてもふれるべきでないか。
11	「公共交通の利用促進」では、中山間地域における運行頻度の低下と利用頻度の悪化や悪循環を繰り返しています。交通事業者の運行向上が望めないならば、地域自主運行の「豆バス」などを積極的に導入促進する政策を期待する。
12	北陸本線が第三セクターになった場合、市民の足として、駅の新設を提案する。
13	地球温暖化対策については、県に富山県地球温暖化防止活動推進センターがあり、相互に連携して、合理的に推進すべきではないか。
14	市内観光の方々にとって魅力あるポイントが知られていないのが現実である。モデルコースを設定し、観光ボランティアの養成を兼ねて観光街回りを実践することにより、魅力の発掘と繰り返し市民に知ってもらう活動の中からホスピタリティも醸成されていくものと確信している。官民でこういった活動が必要ではないか。また、定年世代等を活用するなど、旅・街に関するオールマイティなガイド集団を育成することが重要である。